するに足れり。

穴居と特種病

是等穴居の民は、乾州以北の山地帶に多く、急峻なる斜面の各階段上には、處々に集團して、土人は之を窰屯（ヤオトン）又は窰々（ヤオ〳〵）と稱す。一望洋風の家屋山間に建て連なるが如きも近づき見れば、何ぞ圖らん前に窓牖の如く見えしは個々土民の棲窟ならんとは。斯の如き奇觀なる穴居は、衞生上何等の障害なきにや。聞く穴居民の特種病としては、唯々一の劇烈なる頭痛ありて、宛ら針にて刺すが如く、他に敢て異狀の認むべきもの無しと。惟ふに換氣不十分なるに拘らず竈のみは煙突の設け有るも防寒の必要上穴内に焚火し、且つ狹室に多人數雜居するか故に炭酸の中毒と、濕氣の感應に因るならん乎。

西安と三原

潼關、乾州間の平原地に在ては、沿道瓦屋多く、彼の穴居の土民の如きは、極めて稀にして農商共に生氣あり活氣あること河南の比に非らず。聞く渭河の左岸即ち北方一帶は、右岸一帶の地よりも富饒にして殊に三原最も盛旺なりと。蓋し甘肅より直隷に至る商貨（羊毛、毛皮、水煙等）は南道、即ち西安を經ずして、必らず北道即ち三原を過ぐ。是れ北道は路程近く、且つ一度黃河を渡るの勞あるのみなるに反し、南道は